

# 消化器外科・小児外科

## ● スタッフ（平成27年10月1日現在）

診療科長 勝又 健次  
医局長 立花 慎吾  
病棟医長 星野 澄人

医師数 常勤 26名  
非常勤 9名

## ● 診療科の特徴

当科では消化器疾患を臓器ごとに上部（食道・胃）、下部（大腸・肛門）、肝・胆・膵の各グループに分け、また小児外科グループも含め、最先端の医療を提供できるように診療・研究を行っています。

### 特殊性・アピールポイント

食道癌については、内視鏡下の粘膜下層剥離術を早期癌に行い、DaVinciによるロボット支援手術も先進医療をにらみ取り入れています。胃癌の早期癌には適用によりセンチネルリンパ節コンセプトを利用した腹腔鏡補助下切除術を行っています。また進行癌には新規抗癌剤による治療を積極的に行っています。

結腸癌・直腸癌手術の7割以上を腹腔鏡下に施行し良好な成績を得ています。また肛門の機能温存手術（自律神経温存手術・括約筋間直腸切除術など）を行い、患者様のQOL向上に努めています。

肝切除・膵切除例は近年増加傾向です。癌の制御を目指し手術だけでなく新規抗癌剤などによる術前および後補助療法を積極的に行うとともに、その副作用を患者血液の遺伝子解析を利用して予測する研究も行っており治療に応用しています。

小児外科領域は食道裂孔ヘルニア・Hirschsprung病・鼠径ヘルニアなど様々な手術に対して腹腔鏡下手術を導入しています。また小児泌尿器科的疾患も積極的に手術を行い良好な成績を収めております。

## ● 診療実績（2015年1月1日～12月31日の診療実績）

全体の手術総数は841例でした。例年750～950例で推移しております（図1）。

食道癌の切除例（手術・内視鏡的切除）は年間約76例で、胸腔鏡を含む開胸による手術は39例で、早期癌に対して行われた内視鏡的粘膜下層剥離術は37例で、全国でも有数の症例数です（図2a）。胃癌の切除例（手術・内視鏡的切除）は年間約86例で、腹腔鏡下手術は36例でした（図2b）。腹腔鏡手術は年々増加傾向にあります。

結腸癌・直腸癌の切除例は年間約225例で、近年増加傾向にあります。また、かねてから手術症例のうち70～80%の症例に対して腹腔鏡下手術を取り入れており、良好な成績を得ております（図3）。

肝切除・膵切除例はそれぞれ年間約35例/124例で国内でも有数の症例数を誇ります。とくに膵臓疾患については特に増加傾向にあり、また悪性腫瘍も含めて腹腔鏡下手術を積極的にとり入れております（図4a,b）。

小児外科領域は年間184例の手術を行っております。2011年からは小児泌尿器科的疾患も積極的に手術を行っており、手術数は増加しています（図5）。

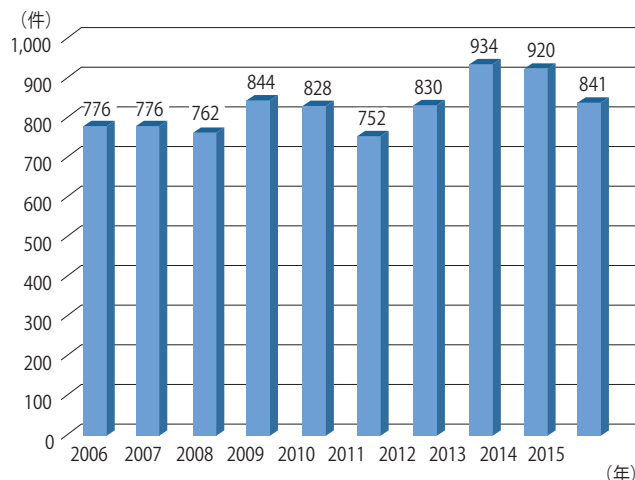


図1：総手術件数以推移

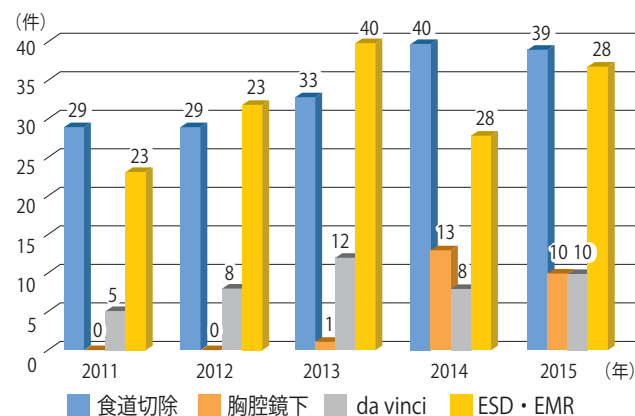


図2a：食道切除術

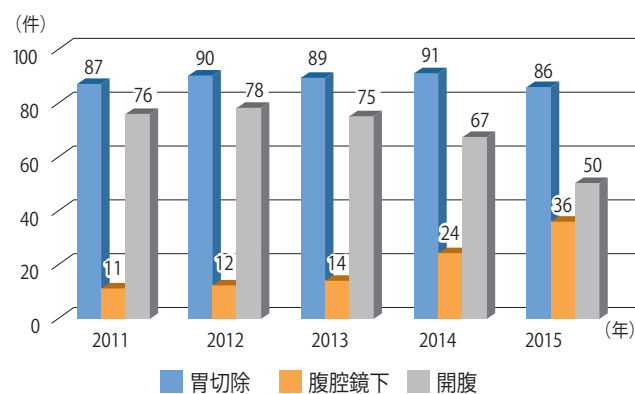


図2b：胃切除

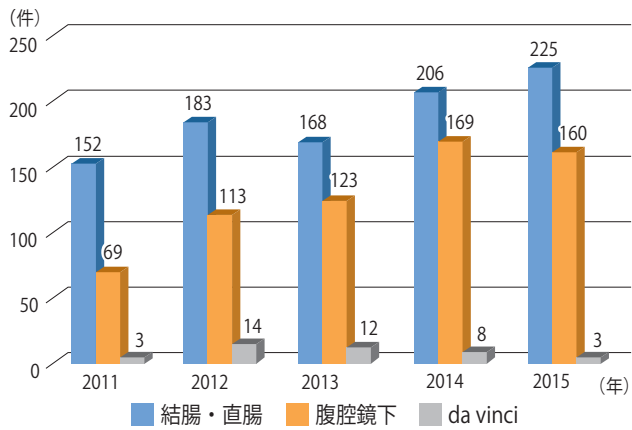


図 3：大腸切除術

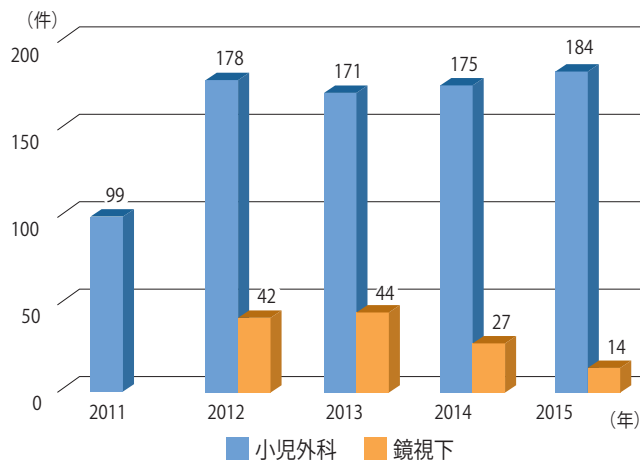


図 5：小児外科手術

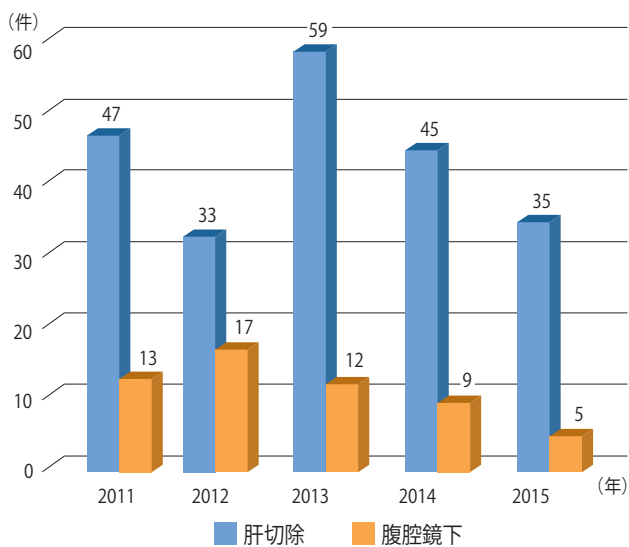


図 4a：肝切除術

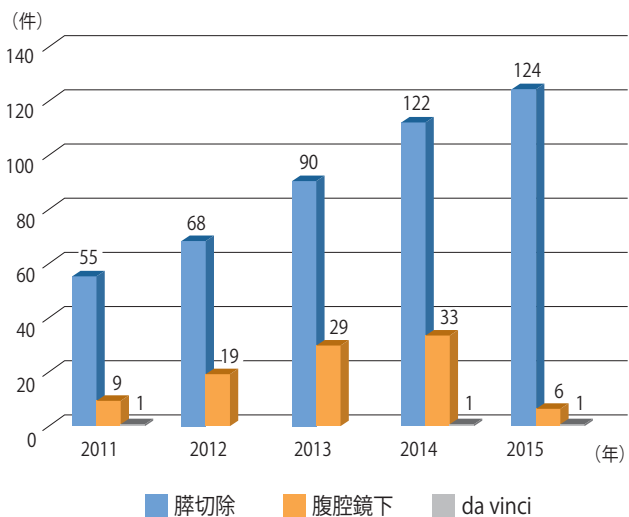


図 4b：脾切除術